

平成26年10月16日

米国科学誌「PLOS ONE」誌掲載

糖尿病患者の心の負担に日本人特有の要因の存在

-協調性を重視する文化の影響-

京都大学医学部附属病院の 池田 香織 特定助教と大学院医学研究科の 稲垣 暢也 教授らは、同学こころの未来研究センターの 内田 由紀子 特定准教授、高知大学医学部の 藤本 新平 教授、アメリカ Delaware 大学の Beth Morling 准教授と共同で日米の糖尿病患者の調査を行い、アジア文化で特徴的な協調性の重視が糖尿病患者の心の負担を増す要因となっていることを明らかにしました。

この研究成果は2014年10月15日午後2時(アメリカ東部時間)に「PLOS ONE」で公開されます。

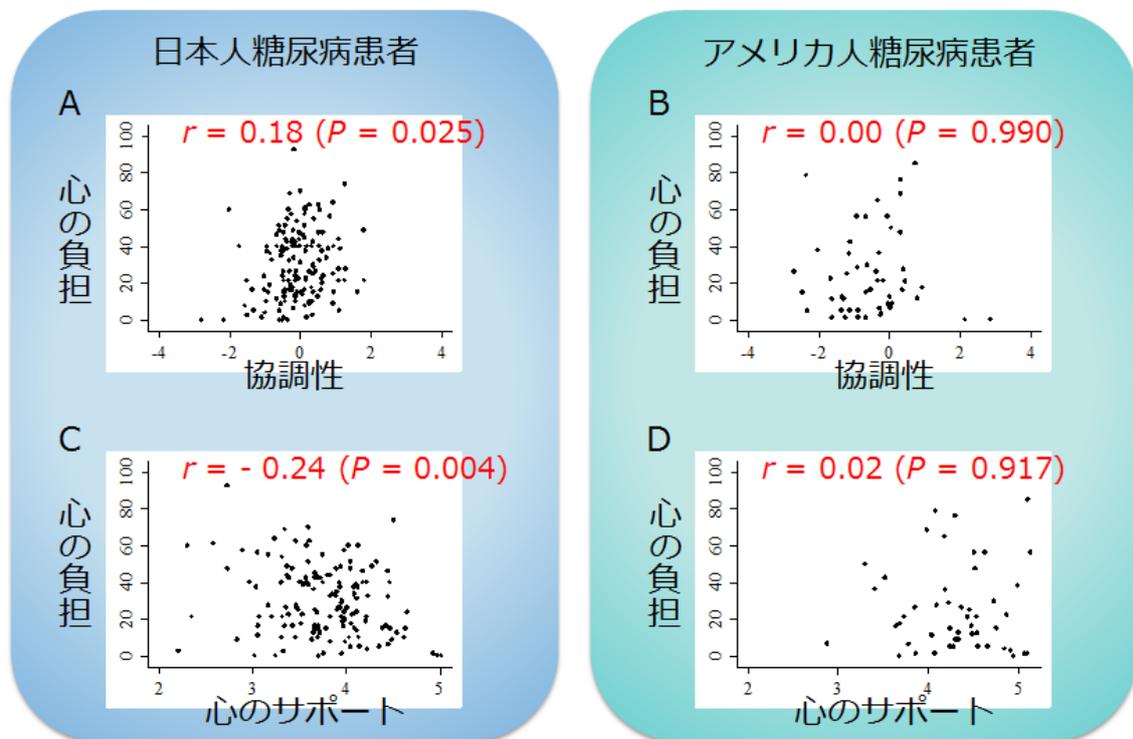
【概要】

糖尿病の治療の目標は、血糖値の改善とともに、健康な人と変わらない生活の質を保つことです。糖尿病の治療では食事療法や運動療法などを日常生活の中に取り込む必要が生じますが、これを成功に導くための手法はまだ十分整っていません。文化・社会心理学の研究成果から、人の行動の動機に個人の意思や能力の影響が大きい北米と異なり、アジアでは周囲との関係による影響が大きいことが明らかになってきました。池田香織特定助教（京都大学医学部附属病院糖尿病・内分泌・栄養内科）らは、生活習慣の変容を求められる糖尿病の治療においてはこの文化的背景を考慮にいれる必要があると考え、内田由紀子特定准教授（同学こころの未来研究センター）らとともに、日本人糖尿病患者とアメリカ人糖尿病患者に対し、協調性、周囲の人との心のつながり、糖尿病の心の負担を調査し、相互の関連を検討しました。協調性が高いとされる社会で生活する日本人糖尿病患者では、協調性の高い人ほど糖尿病の負担を強く感じており、周囲との心のつながりが強い人では負担が軽減していました。糖尿病の分野ではこれまで、社会や個人の協調性に関する議論はなされていませんでしたが、今回、文化・社会心理学との融合研究によって新たな視点をもたらされました。

【研究手法・成果】

京都大学医学部附属病院とアメリカデラウェア大学関連の基幹病院にて、外来受診患者を対象として質問紙調査を行いました。文化・社会心理学の領域で用いられる、協調性の程度や身近な周囲の人からの心のサポートを尋ねる質問紙や、糖尿病学の領域で用いられる、糖尿病から生じる心の負担を尋ねる質問紙を用いました。調査の結果から、日本人糖尿病患者では協調性を重視する人ほど糖尿病による心の負担を強く感じる傾向があることがわかりました。さらに、身近な人からの心のサポートを強く実感している人ではこの負担感が小さいこともわかりました。一方、アメリカ人患者ではそのような関連がみられませんでした。

図1



A, B: 協調性（横軸）と糖尿病による心の負担（縦軸）の関係

Aの日本人では協調性を重視する人ほど負担を強く感じているという関係ありますが、Bのアメリカ人では明らかありません（*r*: 相関係数、*P*: 統計学的過誤率）

C, D: 周囲からの心のサポート（横軸）と糖尿病による心の負担（縦軸）の関係

Cの日本人では心のサポートを強く実感している人ほど負担が小さいという関係がありますが、Dのアメリカ人ではそのような関係がみられません

【波及効果】

日本などアジアの国では周囲の他者との調和を重視する相互協調性の高い文化や社会が特徴的とされていますが、この協調性と糖尿病の負担の関連を明らかにした報告は本研究が世界で初めてです。協調性を重視する程度やサポート

の効果には個人差も大きいと思われませんが、アジアでは身近な人からの共感や励ましは糖尿病患者の心の負担の軽減やその結果としての治療の成功に効果を発揮しやすいことが示唆されます。糖尿病の療養を支援する手法は特に北米において検討が進んでおり、日本でもそれらの手法がよく知られています。しかし、世界の中でもアジア地域の糖尿病患者数は非常に多く、アジアに特有の要因があるという今回の知見は大きな価値をもちます。アジア地域の糖尿病患者に効果的な手法が開発される契機となることが期待されます。

【研究者からのコメント（池田香織特定助教）】：

協調性を重視する程度や周囲からの心のサポートの効果には個人差も大きく存在しますが、日本などアジアの国では周囲の他者との調和を重んじる相互協調性の高い文化や社会が形成されています。このことを考慮に入れた治療戦略を確立することで、多くの糖尿病患者の心の負担の軽減やその結果としての治療の成功にも貢献することが期待されます。

【今後の予定】

池田特定助教と内田特定准教授らは、今回の知見をもとに、日本人糖尿病患者において効果的な療養方法を探る研究を実施しており、より具体的な療養方法の開発につなげることを目指しています。

【論文】

“Social orientation and diabetes-related distress in Japanese and American patients with type 2 diabetes,” Kaori Ikeda, Shimpei Fujimoto, Beth Morling, Shiho Ayano-Takahara, Andrew E Carroll, Shin-ichi Harashima, Yukiko Uchida, and Nobuya Inagaki, *PLOS ONE*, online October 15, 2014 (アメリカ東部時間), <http://dx.plos.org/10.1371/journal.pone.0109323>.